

Accuphase

STEREO POWER AMPLIFIER

model P-260

ステレオ・パワー・アンプリファイヤー

取扱説明書



このたびはアキュフェーズ製品をお買上げいただきまして誠にありがとうございました。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで数多くの厳しいチェックを受け、その過程及び結果が一台ごとの製品の履歴書として明細に記録され、社内に保管されております。このように完全な品質管理体制の中から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。末長くご愛用下さいますようお願い申し上げます。

お 願 い

お客様カードを付属していますから、これに必要事項をご記入のうえなるべく早く（お買上げ後10日以内に）ご返送ください。お客様カードと引きかえに品質保証書をお届け申し上げます。

製品に関するお問い合わせ、または異常が認められるときは弊社、品質保証課または、お求めの専門店へ、直ちにご連絡くださいますようお願い申し上げます。

目 次

特長	1
接続方法	2
各部の名称と動作説明	3
ブリッジ接続について	6
ご注意	7
保証特性・特性グラフ	8
ブロック・ダイアグラム	9

特長

P-260はオーディオ出力素子として理想的な新しいデバイス MOS FET を採用した、最も進んだパワー・アンプです。しかも CLASS-A の動作に切り替えることができ、超高級マニアや高度なマルチ・アンプ・システムにも適しています。

出力は NORMAL OPERATION で130W×2, CLASS-A で30W×2と十分な出力を得ています。

オプション・パーツとしてローズウッドの美しい木目を生かしたキャビネットを用意しました。パネル・フェースと融合した優雅な雰囲気は、リスニング・ルームを一段と引き立てます。型名はA-8型です。

■完全A級動作にできる切り替えスイッチ付

より完全な高域特性を実現するために、切り替えスイッチにより完全なA級動作にすることができます。A級動作方式はプッシュプル素子の動作領域が常に完全にオーバーラップする本来のA級動作です。したがってバイアス電流やB電圧を信号によって変化させる方式とは異なり、極めて安定な動作が期待できます。なお、動作状態はLEDにて表示されます。

■MOS FET による出力ステージ

ファイナル・ステージにMOS FETを採用、電圧制御方式によりノッチングひずみが皆無です。MOS FETは前段からの電力供給を必要としないのでプリ・ドライブ段もA級で構成することができ、NORMAL 動作時でも極めて優れた特性を得ることができます。

■完全対称型プッシュプル駆動

全増幅段をアキュフェーズのオリジナル回路である対称型プッシュプル駆動方式で構成しました。素特性に優れておりTIMひずみ等の音質劣化要素を大幅に低減しております。

■DC構成によりカラレーションを排除

NFBループ内の大容量コンデンサーを取り去り、DC構成にしました。これにより音質は一段とカラレーションの少ないものになりました。出力のDCドリフトは入力にデュアル素子を使用すると共に各パーツの熱的バランスを配慮し、皆無に近い状態になっております。

■ホールド機能付ピーク・レベル・メーター

出力計は対数圧縮型ピーク・レベル・メーターでdB目盛と共に、出力を直読できます。またメーター・ファンクション切り替えにより約3秒内のピークをホールドできますので、最大値の監視に威力を発揮します。

■C I コアーのトランスと大容量コンデンサー

電源トランスは効率に優れ負荷変動率の良好なC I コアーを使用、高性能電源を実現しました。エネルギーを貯えるフィルター・コンデンサーは特にオーディオ用として開発した低インピーダンス形を採用、40,000 μ F 2個の大容量によって、いかなるエネルギー変動にもびくともしない充実した電源が構成されております。

■1dB ステップのアッテネーター

入力レベルは-20dBまで1dBステップのディテント式アッテネーターにより正確にコントロールできます。特にマルチ・アンプ・システムのレベル合わせ等で威力を発揮します。

■過熱防止回路付

A級動作時は発熱が多くなり、放熱が悪い場合は内部が過熱し破損する恐れがあります。このような事故を防止するために内部が異常に過熱すると自動的にバイアスをコントロールし、過熱を防ぐ安全回路が内蔵されています。

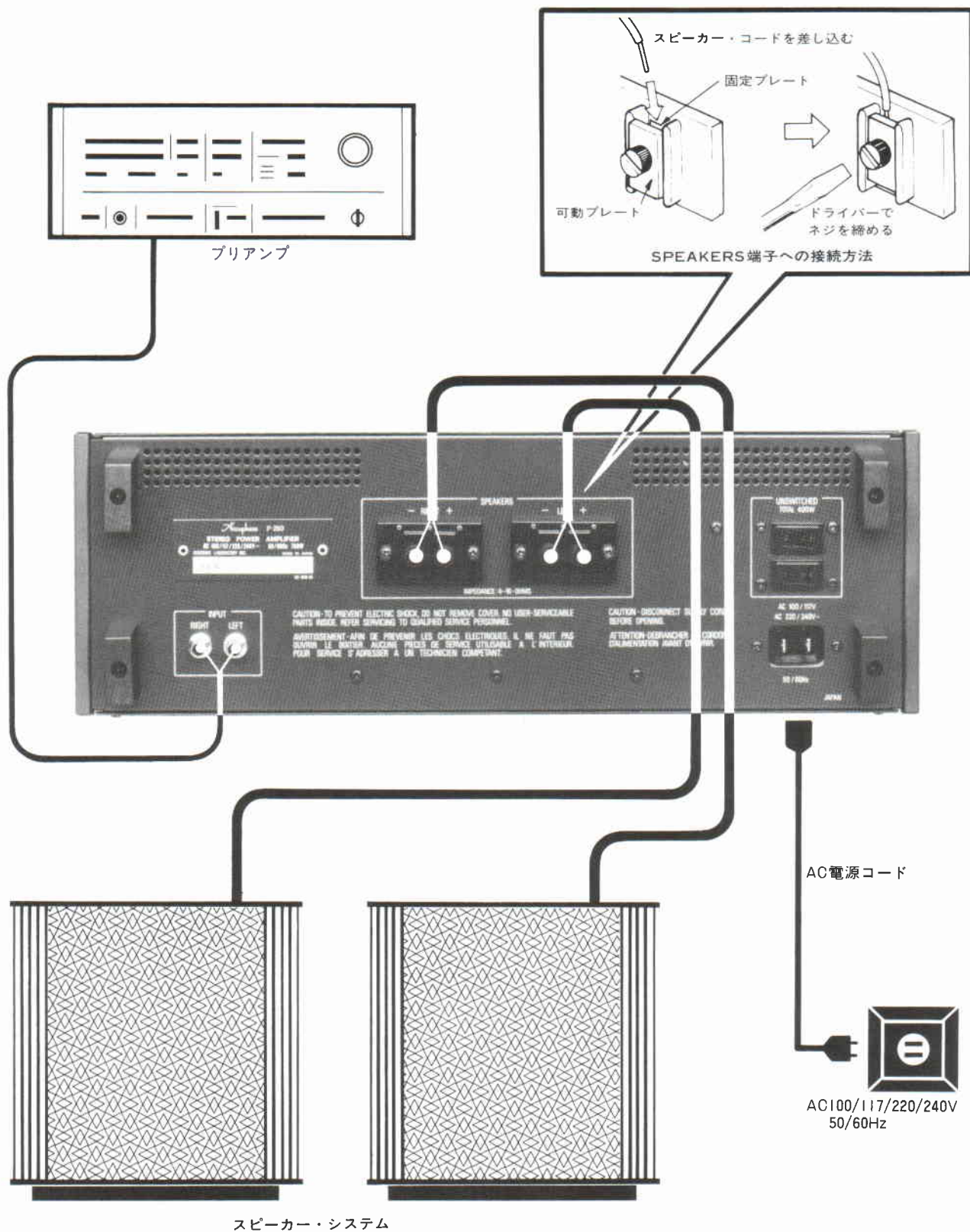
■ブリッジ接続によりパワー・アップが可能

パワー・ブリッジ・ネットワークB-6型と本機をもう1台追加することにより、ブリッジ接続で大幅にパワー・アップができます。

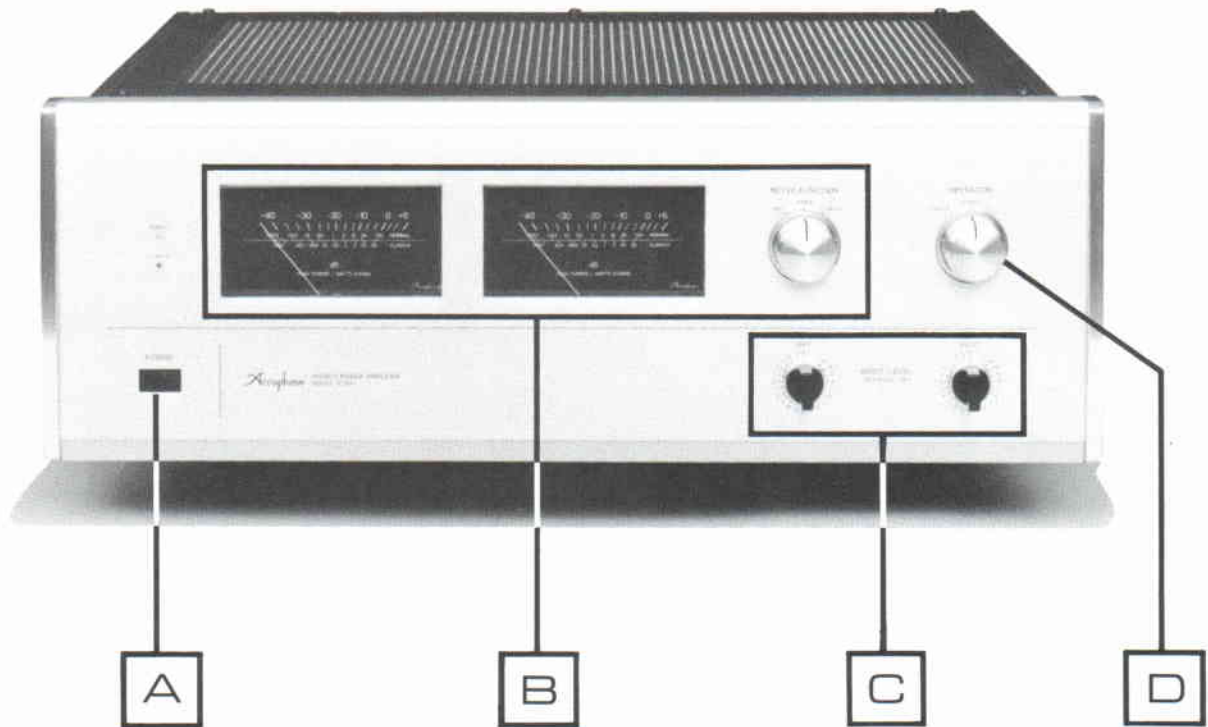
ブリッジ接続については、この説明書の6ページを参照してください。

表紙の写真はP-260をローズウッド・キャビネットA-8型に収納したものです。

接続方法



各部の名称と動作説明



A

POWER

POWER——電源スイッチ

押し込んだ状態で電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで、約4秒間はミュート回路が動作していますので出力はありません。

B

METER FUNCTION PEAK POWER LEVEL METER

METER FUNCTION——メーター機能切替スイッチ

OFF メーター回路がOFFになりますから、パワー・メーターの指針は振れません。

NORMAL 瞬時に変化する音楽や音声信号のピーク値をパワー・メーターが表示します。

HOLD パワー・メーターの表示する値を読み取りやすくするために約3秒間のサンプリング周期で、その間のピーク値を指針が保持します。ピーク値は約3秒間隔

で自動的にリセットされます。

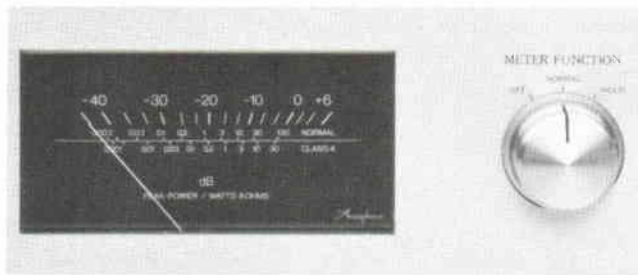
PEAK POWER LEVEL METER——ピーク指示型パワー・メーター

このパワー・メーターはピーク・レベル指示型になっていますので、きわめて短時間のうちに振幅や周期が変化する音楽や音声信号のピーク値をメーターが表示するように回路が構成されています。したがって瞬時のピーク値を読み取りやすくするために、メーター指針の立上り時間にくらべて帰りの時間が遅くなっています。

さらに、瞬時のピーク値を一層読み取りやすくするために、METER FUNCTION スイッチを“HOLD”にしますと、約3秒間のサンプリング周期をもつピーク・ホールド回路がピーク値を保持します。ピーク値は約3秒間隔で自動的にリセットされ、その間のピーク値を次々に表示して行きます。

ピーク指示型のメーターはレコードなど、プログラム・ソースにノイズがあったり、パルス性の信号が多くふくまれているものでは聴感上の音量感と多少違った感覚を受けることがあります。

メーター・スケールは出力レベルをdBで表示するととも



に、8Ω負荷時のワット数をNORMAL動作、A級動作時ともに直読できるようになっています。したがって8Ω負荷で□のOPERATIONスイッチが“NORMAL”（通常の動作状態）のときは、正弦波を加えて0dB=130W、-10dB=13W、-20dB=1.3Wとなります。4Ω負荷でNORMAL OPERATIONのときは、0dB=260W、-10dB=26Wと直読目盛の2倍の値、16Ω負荷のときは直読目盛の1/2倍の値が出力パワーとなります。

OPERATIONスイッチをCLASS-A（A級動作）にしたときは、8Ω負荷のとき、0dB=30W、-10dB=3Wとなり、4Ω負荷時は8Ω負荷時の2倍、16Ω負荷のときは1/2倍の値が出力パワーとなります。また指針の振れはA級動作にしますと、大きくなります。



INPUT LEVEL

INPUT LEVEL——入力レベル調整

本機へ入力する信号のレベルを調整するつまみです。いかえると、LEFT（左）チャンネル、RIGHT（右）チャンネルの出力レベルを調整するもので、右まわしで出力が増大します。最大“0”から左へまわして“20”の位置（-20dB減衰）まで1dBステップになっています。通常は最大“0”でご使用ください。マルチ・チャンネル・システムにこのアンプをご使用のときなどのレベル調整に有効です。



OPERATION

OPERATION——オペレーション切替スイッチ

このつまみを“CLASS-A”にしますと、アンプの動作

基準が通常の状態からA級動作になります。

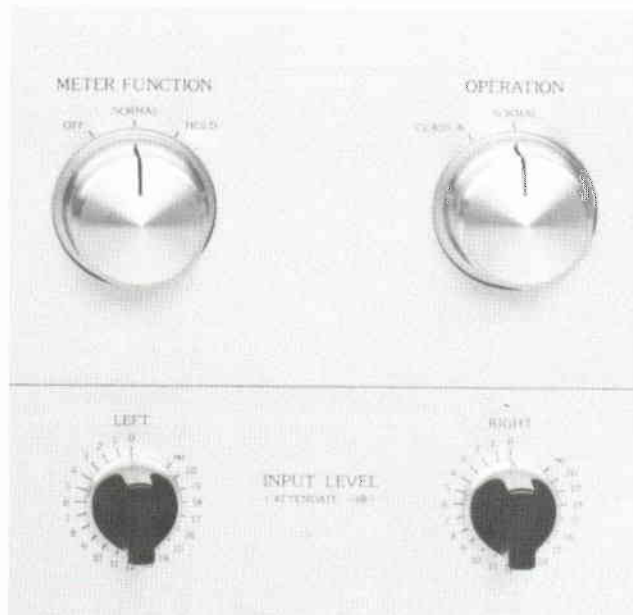
A級動作にしますと8Ω負荷時の最大出力が30Wと小さくなり、パワー・メーターの左側にある発光ダイオード（LED）の表示が切り替わります。

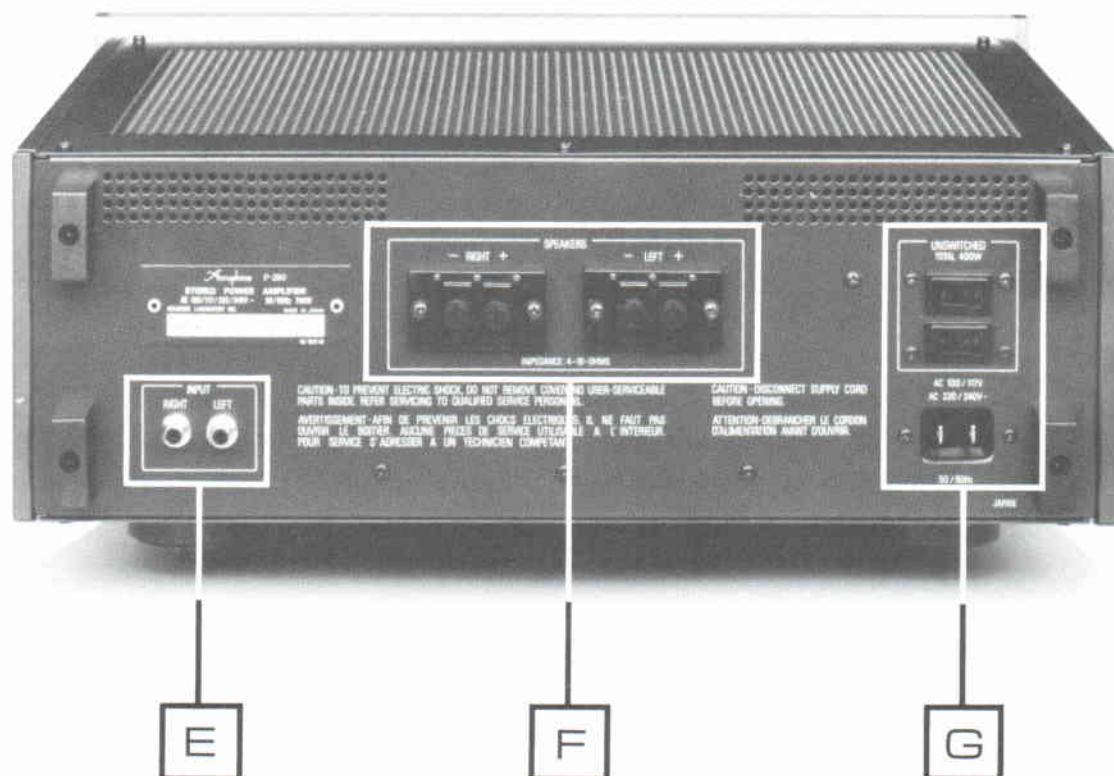
■パワー・アンプの出力とスピーカーの能率について

本機は回路の動作基準を切り替えることにより、最大出力が130W（8Ω負荷）から30W（8Ω負荷）になりますが、アンプのゲインが変わりませんので音量も変わりません。

スピーカー・システムの能率が92dB/W/m以上の特性をもつ大型フロア・タイプのシステムなどでは、通常のリスニング・レベルにおけるアンプの出力は10W位のものですから、瞬間的に入るピーク信号も30Wの出力があれば十分です。また、音量を大きくした場合でも、大体3dBのクリッピングはひずみを感じませんので、A級動作でも実質60W出力のアンプのピーク時に相当する音量感を出すことができます。

しかし90dB/W/m以下の能率をもつスピーカーでは、音量を大きくするほどにクリッピングが激しくなり、ひずみの多い再生音になりますので、このような場合は動作をNORMALにしてお使いください。



**E****INPUT****INPUT**——入力端子

コントロール・センター（プリアンプ）の出力端子とこの端子をシールド・コードで接続してください。定格出力1V以上のコントロール・センターをご使用ください。出力電圧が低いとゲイン不足になることがあります。

F**SPEAKERS****SPEAKERS**——スピーカー端子

入力インピーダンス4～16オームのスピーカー・システムを接続してください。

G**UNSWITCHED****UNSWITCHED**——電源スイッチに連動しないコンセント

本機の電源コードがACコンセントに接続されている場

合、電源スイッチのON/OFFに関係なく、他の機器への電源供給ができます。接続する機器の消費電力が400Wをこえないように注意してください。

なお一番下にあるプラグは本機へ供給するAC電源の受口です。付属のコードを差し込んでください。

■電源電圧の切り替えと電源ヒューズについて

電源電圧の切替プラグおよび電源ヒューズは、シャーシ内部についております。トップ・プレートをはずしますと、電源トランスの横に電圧切替プラグ、リア・パネルのところにヒューズ・ホルターがついています。

使用できる電源電圧は100V、117V、220V、240Vの4段階に切り替え可能です。国内でお求めの場合は100Vにセットされております。

電源ヒューズは電圧により定格が変わります。本機のヒューズは100V/117Vのとき、スロー・ブロー（SLOW-BLOW）タイプ10A、220/240Vのとき、スロー・ブロー（SLOW-BLOW）タイプ5Aとなっています。ヒューズは特に原因がなくても切れてしまうことがあります。

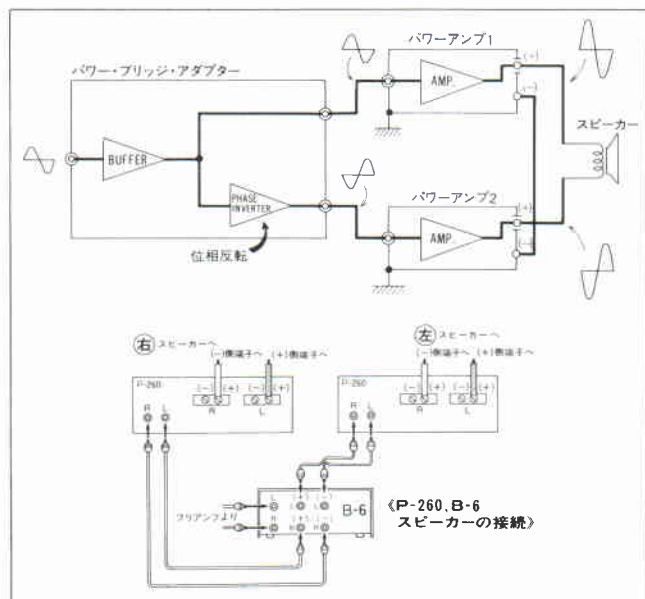
電源電圧の変更や、ヒューズが切れて電源が入らなくなったときには、お求めの専門店、または弊社の品質保証課までご連絡くださいますようお願いいたします。

■ブリッジ接続について

ブリッジ接続は2組のステレオ・パワー・アンプを原理図のように接続し、通常の場合の3～4倍近い出力を得る方式です。P-260では実測値でNORMAL約430W、CLASS-Aで110Wの出力が得られます。原理図でもお分りの通り、ブリッジ接続には「もう1台のP-260」と「ブリッジ・ネットワーク」が必要になります。弊社ではブリッジ・ネットワーク・アキュフェーズB-6を用意しておりますので、パワー・アップ時はB-6を併用することにより、色付けの無い極めて優れた音質の大出力を取り出すことができます。

尚ブリッジ接続には、次の点にご留意ください。

- ① P-260とB-6の接続は「接続図」の通りです。出力はそれぞれの⊕端子から取り出しますが、スピーカーへの極性を間違えないようにしてください。
- ② アンプ1台当りの負荷インピーダンスは半分にになります。つまり8Ωのスピーカーでも各アンプには4Ωのスピーカーが接続されたことになります。そのため通常の接続に比べて過負荷になりますので、公称インピーダンスが5Ω以下のスピーカーは使用しないでください。
- ③ 2台になりますので発熱も倍になります。放熱には特に注意してください。
- ④ 消費電力も倍になります。特にCLASS-Aでは2倍で約400Wを消費します。このためプリアンプのアウトレットから電源を取り出すことは危険です。独立した電源コンセントから取り出すようにしてください。



ご注意

■パワー・アンプの空気孔はふさがないようにしてください

ハイパワー・アンプはかなりの熱が出ます。特にA級動作をさせているときには、回路内を大電流が常時流れますので、本機の温度上昇も相当なものになりますので、アンプのまわりの空気孔の近くに空気の流通をさまたげるようなものを置いたり、狭い通気の悪い場所へセッティングすることは絶対にさけてください。また、直射日光のあたる場所でのご使用はさけてください。

別売のローズウッド・キャビネットA-8型に入れたときのクーリングについては十分に検討されておりますので、まったく支障はありません。

■本機の上とか下に直接プリアンプやパワー・アンプを重ねて使用することはさけてください

冷却効果をさまたげるとともに、高利得のプリアンプのときには電磁誘導を受けてハムを発生したり、チューナーでは不安定な動作の原因になることがあります。

■電源はプリアンプのVOLUMEを下げてから切ってください

電源を切るときには必ずプリアンプのVOLUMEをさげてから切ることを習慣づけましょう。

パワー・アンプに信号を通したままの状態では電源をOFFにすると、プロテクション回路のリレー接点をいため、接触不良の原因になります。アキュフェーズ製品のパワー・アンプに使用しておりますリレーは、電流容量も大きく厳選したのですが、VOLUMEを下げることにより、リレー接点の状態を常にベスト・コンディションに保てるわけです。パワー・アンプのレベル調整ツマミをその都度下げする必要はありません。

■レコード・プレーヤーなどを操作するときは、必ずプリアンプのVOLUMEを下げてから行なってください

ハイパワー・アンプを使用して、カートリッジをレコード盤面から上げたり、下げたりするとき、聴感上それほどの音圧を感じなくても、スピーカーには超低域の大電流が流れて、スピーカーを破損する場合があります。

必ずプリアンプのVOLUMEを下げてから操作してください。

■入出力コードを抜差しする場合は、必ず電源を切ってから行なってください

特にRCAタイプのピンプラグ（通常のオーディオ機器に使用されているもの）をジャックから抜差しするときは、（+）側、（-）側ともに同時に入ったり切れたりせず、（+）側が先に入ったり、残ったりする構造のため、一瞬（-）側が浮いた状態となって大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となります。

プリアンプ、パワー・アンプの入出力コードを抜差しする場合は、必ず電源をOFFにしてから行なってください。

■2台以上のアンプ、スピーカーを切り替えて使用するとき

切替スイッチを使って、2台以上のアンプ、スピーカーなどを切り替えてご使用になる場合は、切替スイッチ内でアース側が共通になっていますとアンプの異常発振を誘発する原因となります。

切替スイッチのアース側が共通になっていないことを確認の上ご使用ください。

■OPERATION切替スイッチについて

オベレーション切替スイッチを“CLASS-A”から“NORMAL”に切り替えたときには、電源回路から供給するエネルギーが急に増大するために、一瞬パワー・メーターの照明ランプが暗くなりますが、これは故障ではありません。逆の場合は暗くなりません。

保証特性

連続平均出力 (新IHF)

NORMAL OPERATION CLASS-A OPERATION

180W/ch	4Ω	45W/ch	4Ω
130W/ch	8Ω	30W/ch	8Ω
65W/ch	16Ω	15W/ch	16Ω

(両チャンネル同時動作 20-20,000Hz間)

ひずみ0.01%以下)

高調波ひずみ率

0.01%以下 4Ω

0.005%以下 8Ω

0.005%以下 16Ω

(両チャンネル同時動作 0.25W~定格出力間)

20-20,000Hz間)

IMひずみ率 (新IHF)

0.003%以下

周波数特性 (新IHF)

20-20,000Hz +0, -0.2dB (定格出力時, レベル・コントロールMAX.)

0.4-250,000Hz +0, -3.0dB (出力1W時, レベル・コントロールMAX.)

0.4-120,000Hz +0, -3.0dB (出力1W時, レベル・コントロール-6dB)

ダンピング・ファクター (新IHF)

120 (50Hz)

入力感度・入力インピーダンス

1.3V (定格出力) 50kΩ

0.12V (新IHF, 1W出力) 50kΩ

A-補正S/N(NORMAL OPERATION)

120dB (定格出力にて, 入力ショート)

100dB (新IHF, 1W出力時)

出力メーター

対数圧縮型 -40dB~+6dB 及び出力直読目盛

ピーク・ホールド切替付き

使用半導体

33トランジスター, 16FET, 4IC, 40ダイオード,

2オプトカプラー

電源及び消費電力

100, 117, 220, 240V 50/60Hz

NORMAL OPERATION 63W 無入力時

490W 8Ω 負荷定格出力時

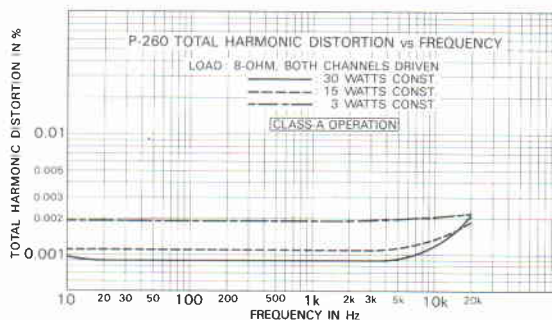
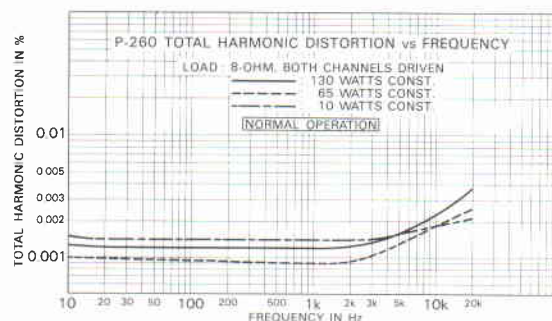
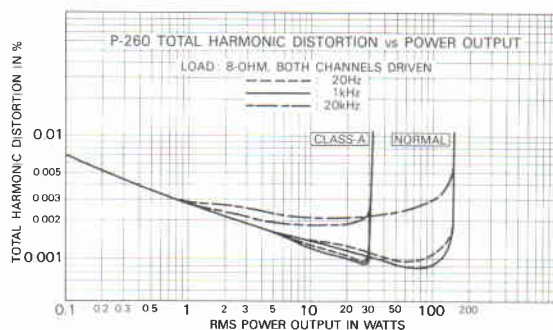
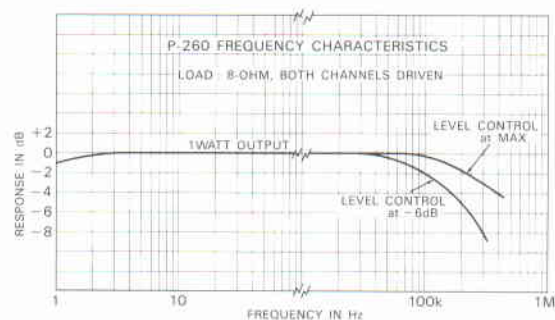
CLASS-A OPERATION 195W 無入力時

210W 8Ω 負荷定格出力時

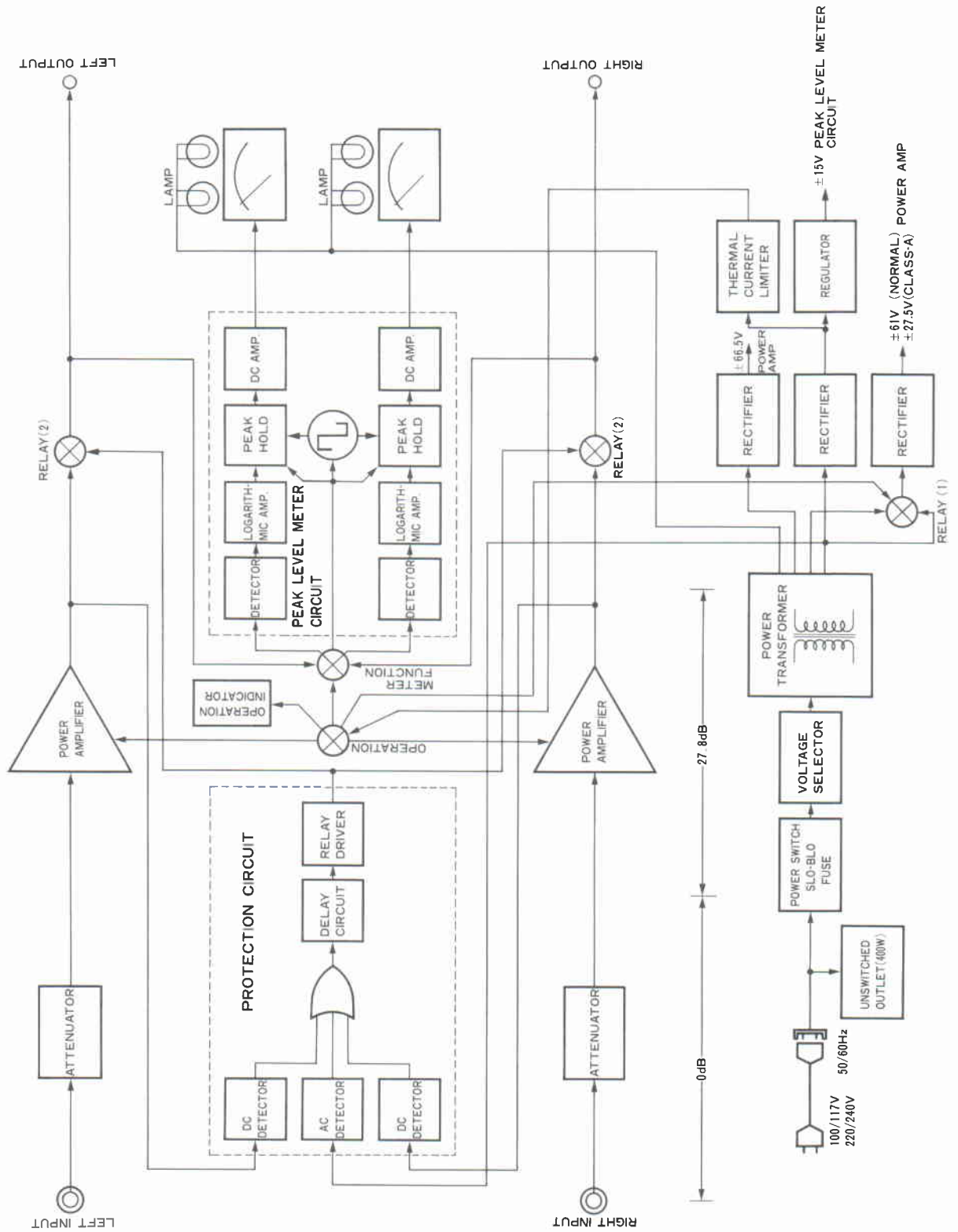
寸法・重量

幅445mm×高さ160mm(脚含む)×奥行390mm, 19.7kg

特性グラフ



ブロック・ダイヤグラム



KENSONIC LABORATORY INC.



ケンソニック株式会社
横浜市緑区新石川2-14-10
〒227 TEL (045) 901-2771(代表)